

事務事業評価における総括

部 局 名	建設部	記入責任者	川口 和夫
評価について（現状と課題）			
<p>【事業の達成状況について（現状）】</p> <p>建設部は道路、公園、市営住宅等の定例定型的な維持管理業務が多いため、全体としては、例年どおり順調に推移しており、業務計画に位置付けた事業についても、29 事業のうち 21 事業で S 評価、3 事業で A 評価、2 事業で B 評価としていることから概ね順調と考えています。しかしながら、道路整備には用地取得を含め成果を出すまでには、様々なプロセスがあるため、2 事業で C 評価、1 事業で実績なしとなっております。</p> <p>【達成できた（できなかった）要因についての分析（課題）】</p> <p>道路管理課「橋りょう等長寿命化修繕事業」、道路建設課「浜園橋橋りょう整備事業」の C 評価については、国庫補助金が十分に充当されなかったことや、関係機関との協議・調整に期間を要したことから、指標が達成できなかったものです。「高田菰園線道路改良事業」は用地買収において地権者の同意が得られなかったことから、実績なしとしています。</p>			
今後の方向性			
<p>【政策・施策目標の達成に向けた今後の方向性について】</p> <p>近年、交付金等が幅広く配分される傾向にあり、財源の確保が厳しく、道路や公園整備や地籍調査など進捗が大きく抑制される要因となっておりますが、公園については、関係部局と連携することで、オープンスペースの確保に努めてまいります。また（仮称）市営小和田住宅外複合施設については、平成 32 年度の供用開始に向け、庁内で連携して取り組むとともに、関係団体等と調整を進めていきます。</p> <p>提案型民間活用制度事業である「市営住宅の修繕」と「狭あい道路整備事業」については、これまでの実績や課題を整理し、今後新たな事業展開や方向性を検討してまいります。</p> <p>建設部は道路等のインフラ整備を主体としているため、政策・施策目標の達成に向けは、財源の確保が大きな課題となっておりますが、単年度毎の事業が計画どおり成果が得られるように、業務内容に応じて可能な限り業務の効率化を図ってまいります。</p>			